

もっと現場を知る！職員短期派遣研修報告書

| | | | |
|------------|--------------|----|-------|
| 所属名 | 西部農林振興センター | 氏名 | 木戸しずか |
| 派遣先 団体名 | NPO法人アンダンテ21 | | |

① 修内容

■8/5(日) 川ガキ講座 inひきみ源流キャンパス

目的 豊かな自然や文化を守り育み、そして楽しむ場をつくり、さらに次世代につなぐことを目的とし、流域で生活し活動されている人々から学び相互に連携すること

日程

- 8:00 会場準備、スタッフ打ち合わせ
- 9:00 受付開始、駐車場誘導
- 10:00 開会式～オリエンテーション
- 10:30 魚とり、食器づくり
- 12:00 昼食(鮎めし、ヤマメの塩焼き、酢の物、石焼き、そうめん等)
- 13:00 源流体験(すいとん)
- 15:00 閉会式了
- 16:00 片づけ



□まとめ・所感

参加して分かりましたが、“川ガキ”とは“夏になると川に現れる子供”のことで、とても興味を引くネーミングです。私は当初、川に生息する貝類と勘違いしてました。。。

この川ガキ講座では、自然の中で安全に遊ぶ方法を、子供だけではなくその親にも身をもって体験してもらい、自然を身近に感じることで自然保護の意識を醸成しようという取組です。

当日はスタッフを含め総勢90人が参加しました。

目玉の源流体験以外にも、魚の掴取り、竹食器作り、水中観察など盛沢山のメニューで、昼食には自分で捕まえ串刺しにしたヤマメの塩焼きを始め、鮎飯など地元

の食材を使った手作りの料理を、これまた自らが手造りした食器でいただきました。

私は専ら、午前中は昼食づくり、午後は源流体験の女兒補助を担当しました。源流体験の補助は皆さんに同行しながら行いましたので、自分も初めての川下りを経験できました。

通常なら水流に身を任せての川下りが主なところ、今年は降水が少なかったためか、例年より川の水位が低く、歩いての移動がほとんどでした。ただし、水位が低いとはいえ、水深が深いところや流れが急な場所が突発的にあり、また、ぬるいと思った水温でも、しばらく浸かっていると身体が冷え、身体の小さな子供にはてき面、唇を真っ青にし、ぶるぶる震え出す子もいました。

このように、楽しい中でもひやひやする場面があり、危険性を含めて自然との接し方をいろいろ学ぶことができました。



〔竹食器づくりに挑戦〕



〔鮎ご飯など地元旬のご馳走〕



〔興味津々、水中観察〕

■ 9/1(土) COCCOLO親子キャンドルフェスタ2012 in Grantow

目的 11月に行う「ハマグリ貝アート展 & ワークショップ」のピーアール活動も兼ね、アート体験とアート展作品募集を行うこと。

日程 16:30～ 会場準備、スタッフ打ち合わせ

17:00～20:30 受付、貝アート体験等

～21:00 片づけ

□ まとめ・所感



〔パパと仲良く絵付け〕

子育て家庭に体験活動の楽しさを伝え、子どもの健全な成長を支援することを目的としたキャンドルフェスタ会場にて、11月に行うハマグリ貝アート展のPRと展示作品の募集を行いました。

貝アート展は今年で第3回目となりますが、同イベントへの参加はアンダンテ21としては初めての試みでした。チラシ配りによる呼び込みの甲斐もあってか、子供を中心に29名がハマグリへの絵付けを体験してくれました。

個人的に親子イベントには初参加でしたので、呼び込みや接客の合間にはイベント会場を散策したりもしました。

アンダンテ21以外にも、体験、展示、物販といった多

くのブースが出店し、また、ゆるキャラの集結、1400個点灯されたキャンドルなどで、普段見ないくらい沢山の親子連れで賑わっていました。

■10/22(月) ヒメバイカモ保全活動 in吉賀町

目的 絶滅危惧種であるヒメバイカモの保全

日程 12:30~13:00 準備(関係者のみ)

13:00 九郎原集会所集合

13:00~13:05 あいさつ

13:05~13:15 保全対象種ヒメバイカモについての説明

13:15~13:25 保全活動の内容についての説明

13:30~16:30 ツルヨシ除去(刈り取り、集積)作業

16:35~16:40 あいさつ

16:40 終了



【ヒメバイカモ(姫梅花藻)】

□まとめ・所感

「ヒメバイカモ」とは、鳥ではなく、写真のような水中植物です。漢字では「姫梅花藻」と表記されます。写真からも分かるように、清流に生息し、全国で9ヶ所でしか確認されていない希少種です。島根県、というか中国地方では唯一高津川上流のごく一部にのみ存在しており、国と県から絶滅危惧種に指定されています。

アンダンテ21ではこのヒメバイカモの保護活動にも取り組み、生息域近隣の中学生と生育状況調査を行ったり、出前講座などを行っています。

そのような中、高津川の貴重な生息域ではつる草が繁茂したため、急きょ地元住民や県を巻き込んでつる草の除去活動を行いました。

アンダンテ21の多彩な活動と、機動力には脱帽するばかりです。



【つる草真っ盛り】



【作業風景。人も埋まって危険な作業】



【見違えるよう】

- 11/12(月) 18:00～22:00 ハマグリ貝アート展の準備
- 11/15(木) 終日 第3回ハマグリ貝アート展受付
NPO事務局にて事務補助等



★ハマグリ貝アート展★

目的 ハマグリが生育する豊かな自然環境を守り育てるため、益田のハマグリについて広く知ってもらうことを目的に実施

日程 11/13日～19日

場所 益田市 グラントワ



□まとめ・所感

今年3回目となるハマグリ貝アート展の、12日は会場設営・作品展示、15日は会場での受付、グラントワ近くのアンダンテ21事務所にて表彰式の準備を行いました。

ハマグリと言えば、お吸い物に入っている2～3cmのものを思い浮かべますが、大きくなると10cmにもなります。益田市海岸でも、記録によれば風土記の昔から採られていましたが、水質の変化や乱獲等で一時絶滅したかと思われていました。

そのような中、アンダンテ21は'09年からハマグリの環境保全活動を行っています。具体的には、市民参加型の稚貝調査や、貝アート展などによる啓発活動です。その甲斐もあって、漁師による自発的な捕獲制限が行われ、現在生息数は徐々に回復し、水揚量も増加しています。

といったように、私もこのイベントに参加したおかげで、益田のハマグリや環境についていろいろ知見を広げることができました。

また、このイベントを通じて普段出会うことのない人たちが結びつき、関係を深めていくという、人の繋がりを感じるエピソードもありました。



〔準備風景〕



〔当日の様子〕

② 研修の感想

(研修の全般的な感想、各団体での活動の意義や協働に対する感想(研修前後における意識の変化)等について記入してください。)

新規採用以来2度目の西部異動で、浜田には4月に着任しました。地域にあまり出ることなく東部に戻ってしまった前回の反省から、今回は少しでも地域に出て行きたいと思い、現場を知る事業に手を挙げ、西部に拠点を置くNPO法人アンダンテ21を希望しました。

これまでの行政経験では内部事務が多かったため事務所を出ること自体が少なかったのですが、農業振興という職務でも西部農林振興センター管内各地の生産現場などに積極的に出させてもらう一方、現場を知る事業ではその職務では行けないような益田市のひきみ源流から、吉賀町の高津川源流まで幅広く訪れることができました。農業と自然環境は密に関連していることから、途中から農業振興の仕事で行っても当地の自然環境が気になったり、その逆もあっていろいろと興味が湧くようになりました。

また、NPO法人の活動は行政活動と通じるところも多く、アンダンテ21と活動できたことはとても有意義でした。例えば、啓発活動では将来を見据えて、各活動で子供を対象にした“仕掛け”を行っており、そういった対住民向けの仕組み作りは勉強になり、人材育成という視点でも参考になります。ヒメバイカモの保全活動では自然環境課や益田県土整備事務所といった県の機関と協働したように、NPOも行政も同じ方向を向いて仕事をする場合、お互いの知恵や行動力を活かして仕事をするものの有効性を実感しました。

ただ、欲を言えば、イベントの企画段階から参加できればもっとよかったと思います。

③その他特記事項

(※今後の研修実施に当たっての改善点、留意しておくべきことなどがあれば記入してください。)

(注1)研修日時・内容等がわかる資料があれば、添付してください。

(注2)研修終了後、報告会を開催します。